

自動車整備士のための 自動車整備用語辞典

第7版

公論出版

■ エンジン本体 [ガソリン直6]



⇩ シリンダヘッド上面



⇩ シリンダヘッド下面



⇩ ピストン



⇩ バルブ逃げ

⇩ シリンダブロック

本書の目的

本書は、自動車整備士の資格を取得するため、自動車整備技術を学ぼうとする人たちを対象に、その用語をまとめたものです。

用語の選定及びその解説については、登録・検定試験で最低限、正解が得られることを基準としました。ただし、試験の対象としているのは、二輪を除く二級・三級整備士と車体整備士です。

登録・検定試験からの用語の選出は、過去10回程度としました。その解説は、主に日整連の教科書を参考としました。この作業の後、内容をより理解できるように、関連する用語を加えるとともに、解説自体を書き加えました。この結果、「自動車整備」という狭い部分についてはより深く、自動車整備を理解するための関連知識についてはより幅広い内容になったのではないのでしょうか。

例えば、サイクルという用語に対し、単に「周期」という解説だけでは、理解が今一步というところです。そこで、本書では「周期」も用語に加えています。

解説文については、文自体を短くするように心がけました。特に「仕組み」を解説しようとする、とかく文が長くなりがちですが、読み手側からすると、長い文章ほどわかりにくいものです。

また、日整連の一級小型教科書の内容を加えてありますが、スペースの制約があるため、主要な用語のみを収録してあります。

イラストについては、決して十分とは言えないものの、必要最低限のものは収録しました。ただし、今後さらに追加していく予定です。

内容について、十分にチェックしましたが、不備な点や誤りが決してないとは言いきれません。不備な点や誤りについては、読者の皆様に深くお詫びするとともに、ご指摘下さるようお願いいたします。

平成30年10月

自動車整備用語辞典 編集部

本書の使い方

1. 用語の見出し

自動車整備の用語は、カタカナと漢字のものが混ざっています。このような状態のまま、用語を列記すると、用語の探し出しに苦勞します。そこで、漢字の用語は、最初の3文字だけカタカナで表記するようにしました。

2. 用語の順序

清音→濁音（゛）→半濁音（゜）の順に配列しました。

長音については、直前のかなの母音にあたるカナの最後になるようにしました。例えば「インタ・アクスル・ディファレンシャル」→「インターナル」の順となります。

中黒（・）については、無視して並べてあります。

最初に算用数字及びアルファベットが付く用語は、最後にまとめて配列しました。

3. 長音（ー）の取り扱い

最後に長音が付くカタカナ用語は、3文字以上の場合、全て長音を削除してあります。ただし、人名などの固有名詞は対象外です。

4. 中黒（・）の取り扱い

カタカナ用語で複数の語から成る複合語の場合、語と語の間に中黒（・）を挿入しました。ただし、1つの語として定着しているものは、中黒を付けていません(クランクシャフトやカムシャフトなど)。中黒の有無は、日整連の教科書に準じています。

5. 英語の併記

カタカナだけの用語は、そのカタカナに対応する英語を併記しました。ただし、決してカタカナ用語に対する英語表記ではありません。例えば、「ハンドル」というカタカナに対応する英語は「handle」ですが、「ハンドル」という用語に対応する英語は「steering wheel」となります。

本書が英語表記するのは、その英語本来の意味を知ること、そのカタカナ用語に対する理解を深めるためです。

6. 〔一般〕で表される内容

自動車整備用語でありながら、一般的な使われ方をしているものは多数あります。このような用語は、〔一般〕と記して、その意味を簡潔に表記しました。

7. 〔同義〕〔関連〕〔参照〕の使い方

これに続く語と〔同義〕は同じ意味、〔関連〕は関連があること、〔参照〕はその語の方に解説が記してあることをそれぞれ表しています。

また、(〇〇〇)は、その語が収録してあるページ数を表します。解説の文中に(〇〇〇)とある場合、そのページ数に関連の深い用語が記してあります。

[ア]

ア

アーク [arc]

〔一般〕①弧。円弧。弓形。②気体中を大電流が流れる時に見られる電気火花。電弧。

アーク・ブレイジング [arc brazing]

母材と電極、または二つの電極間に発生するアーク熱を利用して行うろう付け。

アーク放電

気体放電が最も進展し、電極材料の一部が蒸発して気体になっている状態での放電。負極は陽イオンの衝撃によって熱電子が放出され、高い電流密度が維持され続ける。大量の熱電子がイオンの空間電荷を中和するため、負極付近での電圧降下はグロー放電に比べ著しく小さく、両極間の電位差は50V以下になることもある。両極間は電子とイオンのプラズマからなる円筒状の陽光柱で結ばれ、内部の電界はほとんど一定である。温度は3000～6000Kにも達し、強く輝く。アーク放電は、直列抵抗を通じて電源につないだ電極を一度接触させてから引き離し、大電流による高温を持続させると実現しやすい。

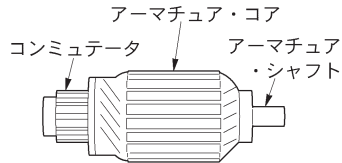
アースング [earthing] 配線を用いてアースをすること。

アース [earth]

①車体に電源の負極を接続すること。アースにより、電線の節約や配線の簡略化が図れる。また、ノイズを車体に吸収させる効果もある。自動車には、乗用車で20～30箇所程度のアース・ポイントがある。②〔一般〕地表。

アーマチュア [armature]

①モータ内でアーマチュア・コイルに電流を流すことにより磁束を生じ、回転する部分。電機子ともいう。前後2個のベアリングで支持され、フレミングの左手の法則に従い回転トルクを生じる。アーマチュア・コア、アーマチュア・コイル、アーマチュア・シャフト



【アーマチュアの外觀】⁴⁻⁰¹⁶

及びコンミュテータで構成される。スタータのモータでは、アーマチュア・シャフトの先端に減速用のドライブ・ギヤが設けてある。②〔一般〕よろい。◇参考：外観が鉄板におおわれているよろいに似ていることから、電機子をアーマチュアと呼ぶようになった。

アーマチュア・コア [armature core]

アーマチュア・コイルの鉄心となるもの。薄い円板状の鉄板を数多く重ねた構造となっている。外周に設けてある溝（スロット）にアーマチュア・コイルが巻かれてある。